

研究協力者報告書

小児インスリン非依存型糖尿病の早期発見と治療法、長期予後改善に関する研究
(分担研究：三重県に於ける小児期発症 II 型糖尿病発症に関する研究)
研究協力者 増田英成

研究要旨：1980～1999 年の三重県で発症した 18 歳未満発症 II 型糖尿病の発症率について検討した。三重県では年間小児人口 10 万人当たり 0.23～2.58 人の発症があり、1987 年以後増加傾向があることが判明した。

A. 研究目的

小児肥満有病率の増加とともに小児の II 型糖尿病発症率は増加しているといわれているが、発症率について報告は少ない。我々は過去 2 回にわたり三重県での小児期発症 II 型糖尿病発症率について検討を行ってきた。今回第 3 回目の調査を行ない、以下の結果を得た。

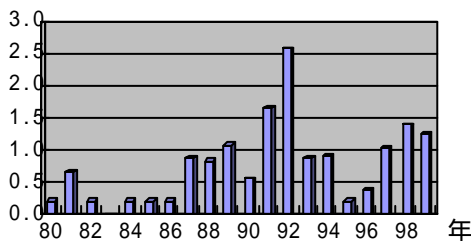
B. 研究方法

三重県に於ける 18 歳未満発症 II 型糖尿病の発症率をアンケート調査により推定した。アンケート送付先は三重県小児科病院 22 施設、内科医 3 名以上常勤する病棟、医院、診療所 86 施設とした。これは前回は行った調査と整合性を持たせるためである。アンケート内容は 1. 氏名、年齢、2. 発症年月日、3. 糖尿病家族歴、4. 糖負荷検査、5. 発見動機、6. その他生化学検査結果などとした。アンケート回収率は小児科 100%、内科 75%であった。

C. 研究結果

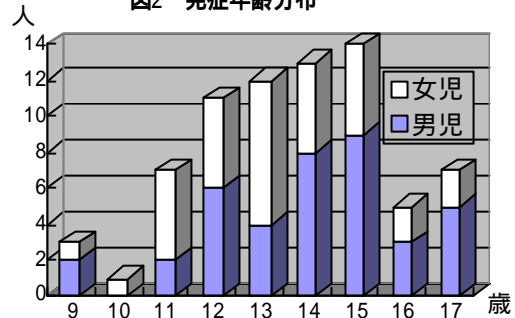
1980 年以後三重県では 73 名の発症があり、性比は男児 39 例、女児 34 例で男児が女児に比して若干多い傾向を示した。発症年齢は 9～18 歳で平均 14.1 ± 2.0 歳であった。発症年齢の性差は認めなかった。発症率を図 1 に示すように 0.23～2.58/100000・年であり 1987

図1 II型糖尿病発症率



年以後 1.0～1.5 前後を推移した。図 2 には

図2 発症年齢分布



性別発症年齢分布を示した。8 歳未満の発症は認めず、15 歳でピークを示した。性差による発症率の相違は認めなかった。

D. 考察

三重県での小児期発症 II 型糖尿病発症率は小児人口 10 万人当たり年間 1.0～1.5 前後であった。東京地区での学校検尿スクリーニングによる発症率は 3～5 で三重県の発症率はやや低いと考えられた。今回は小児科慢性特定疾患医療給付申請書、及び学校検診検尿結果の照合が行えず、CMR 法による発症率推定は残念ながら施行することはできなかった。

E. 結論

1. 三重県に於ける 18 歳未満発症 II 型糖尿病は年間 1.0～1.5 で、性比は 1:1.14 でやや男児が多かった。アンケート調査による洩れがあるため、発症率は最小の見積値と考えられる。

2. 学校発見されたのは 51.7% と約半数を占めており、学校検尿での事後措置が重要と考えられた。